

前作を超える傑作ドキュメンタリー 映画「うまれる」シリーズ第二章

# うまれる

ずっと、いっしょ。

ナレーション 樹木希林

何があっても  
大丈夫。

2015年  
**11/7** (土)

会場：岐阜県図書館  
多目的ホール

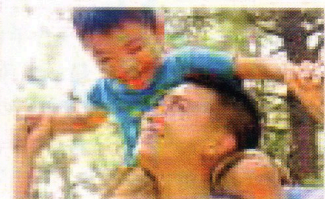
NHK や  
各種新聞で  
話題！

全国の  
映画館が  
涙と笑いの  
渦に

「愛」をいろいろな角度から  
考えさせられました。  
くわばたりま (タレント)

企画・監督・撮影：森田トモ  
プロデューサー：牛山明子  
音楽：古田秘馬 構成：上村直人  
タイトルデザイン：清田 明  
©2014 IndigoFilms

うまれる命、旅立つ命……。いのちに向き合う3組の家族を描いた、愛の物語。



文部科学省・厚生労働省推薦 [www.umareru.jp](http://www.umareru.jp)

上映時間

①開場10:20～ 開演10:40～  
(ママさんタイム)

②開場13:15～ 開演13:30～

料金

前売券 1000円

当日券 1200円

前売券完売の場合は  
当日券はありません

膝の上で鑑賞できる未就園児は無料

「ママさんタイム」とは、3歳以下の小さなお子様の入場を許可した上映会を言い、その場合、3歳以下の小さなお子様の入場料金は無料(お膝の上で一緒にご覧いただく場合に限り)になります。

チケットの購入方法はチラシ裏面をご覧ください

お問い合わせ：母乳育児相談室 MammaMama 058-326-9870

# 家族の絆ってなんだろう？

何もない人生なんてない。

誰もが向き合わなければならない課題を持って生きている。

累計40万人以上を動員し、

観る者を号泣させたドキュメンタリー映画『うまれる』。

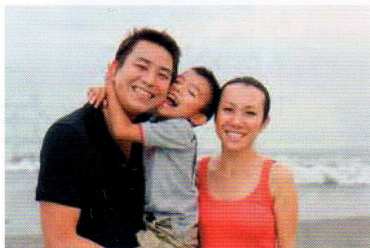
生命の誕生を見つめ、様々な人生の選択とそこから生まれるドラマに寄り添った感動から4年。

さらにテーマを深め、「家族の絆とは何か？」を問う

『うまれる』シリーズ第二章『うまれる ずっと、いっしょ。』が、うまれた。

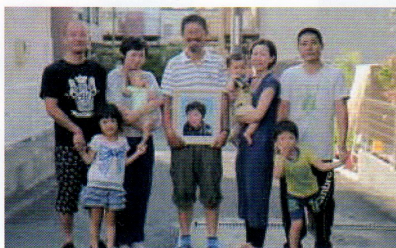
本作には、「最愛の妻を失った事実に向き合う夫」「血の繋がりがない息子に向き合う父」、そして「重篤な障がいを持つ子を育てる夫婦」の、3家族が登場する。

彼らの姿を通し、常に密接にある“生と死”を凝視しながらも、そこから脈々と受け継がれていく生命、生きる力、そして、その土台となる“家族の在りよう”に、深く感銘し、胸を打たれずにはいられない。



■血のつながりのない息子を育てる父親

初めて父親と息子が出会ったのは、息子がまだ2歳の頃。息子は母と前夫との子どもで、父とは血のつながりがないステップファミリーだ。5歳になり、自分を父の父親であると疑っていない息子に、事実を伝えるべきか、迷う。今までの関係が壊れてしまわないか、不安に押しつぶされそうになりながら、息子に大事なことを伝えたい、と重い口を開く。



■最愛の妻を失った夫

末期の大腸がんを患っていた妻が、闘病の末、自宅に戻る。結婚した2人の娘も実家に戻り、残された時間と家族と共に過ごすことに。長女のお腹にいる4人目の孫の誕生を楽しみにしていた妻は、家族に見守られながら、「幸せ。ありがとう」と涙を流し、静かに息を引き取る。42年間連れ添った夫の悲しみは深く、遺影の前で涙する日々。遺された夫は、どのように立ち直っていくのか？



■不治の障がいを持つ子を育てる夫婦

1歳まで生きられる確率が約10%と言われる、18トリソミーという染色体の障がいを持って生まれてきた虎ちゃんは、前作で1歳の誕生日を迎えた。2歳になり、たくさんの笑顔を見せるようになり、できることも少しずつ増えていた。だが突然、虎ちゃんが危篤状態に陥る。両親は、虎ちゃんの死を覚悟するが…。果たして虎ちゃんは...？

## 奇跡的に生まれてきた小さいのち 僕は良き父親になれるのだろうか？

誕生をテーマにした前作『うまれる』(2010年)の公開と同時に娘が生まれ、小さく愛おしい命を目の前にした僕は、率直に「いい親になりたい。家族と幸せに一生を過ごしたい。」と思いました。でも、それは自分が期待するほど簡単な作業ではないとすぐに気づかされました。

長年、親との葛藤を抱えてきたが故の僕の「家族の肖像」が、あまり理想的なものではなかった事と関係しているかもしれません。

それから、4年あまり。カメラを片手に様々な家族を追いかけて完成したこの作品は、家族とは、父親とは、幸せとは、という様々な不安、責任、そして希望を追いかけた僕自身の心の記録です。

映画を観ていただいた方、それぞれに、感じていただけることがあると信じています。



監督 森田トモ



家族とは、大変な時も、喜びの時もある。人間はそういうものですが、問題を抱えながら生き続けていくものだと思います。本作にはたくさんのメッセージが詰まっています。観る人には、それを「心で」感じて欲しいと思います。

ナレーション 樹木希林

手に入れて、手離して。出逢って、別れて。  
産まれて、死んで、また生まれる。  
なんてステキな物語なのでしょう。  
出演者のみなさんの交差する愛。そして、制作側の愛あふれるまなざし。  
観終わって、「ありがとうございます」と呟いちゃいました。

### 東ちづる (女優)

家族とはずっと一緒にいることは出来ない。  
でも、全力で命をかけて愛することで、ずっと一緒にいれるんだ。  
鈴木おさむ (放送作家)

## うまれる ずっと、いっしょ。

企画・監督・撮影：森田トモ  
製作：インディゴ・フィルムズ  
©2014 IndigoFilms 2014 / 日本 / HD / カラー / 122分  
企業サポーター

うまれる [www.umareru.jp](http://www.umareru.jp)

■チケット販売所  
あさがお母乳育児相談室 岐阜市桜木町1-28-1 058-251-5590 母乳育児相談室MammaMama 瑞穂市本田1116-1 058-326-9870  
母子ケアルームしばちゃん 岐阜市田神6-6 090-2688-1014 ゆりかご助産院 各務原市蘇原大島町1-49 058-371-5155  
こうのとり助産院 美濃市西市場2717-6 0575-31-0703 はっとり助産院 関市倉知265-1 0575-29-7132  
空助産院 羽島市中下町483 058-398-1132 ママ、ベビーサポートおくむら 羽島郡笠松町清住町41-3 090-9178-9998

主催：一般社団法人 岐阜県助産師会 岐阜地区